

昭和49年1月30日(1974.1.30)日本経済新聞

掲載のメモ (北沢豊島中央図書館縮刷版より)

交遊抄

かづこさんご のこの地を去るは、アメリカ
にアメリカ人の心 人たちは道徳観がなされてい
る。そして、みづさんは彼らの伝
承のほろびを憂いてやったりし
て、いまだにこの地にとまると
おられる。われわれの方丈さん
も、昭和十八、九年に旧
制静岡高校に在籍した
仲間で、ほかです
て卒業して、佐藤君
も、あはれはともま
で二階科の二三人も
来ていた。戦中のおわ
り、たし、戦年の心を、方丈さんの
いふ銀の光がつかない。た
めて、私にとりては、「おい、お
い、方丈さんは、三十一歳、
時に、下宿しないか」と誘って、
た、茶室の隅に、(現住の茶室)は
は、あつた。い、

心のふるさと

上 月 日

「われわれの方丈さん」

は、このよち、は、あつた。い、

↓(同じころの拡大)

交遊抄

かづこさんご のこの地を去るは、アメリカ
にアメリカ人の心 人たちは道徳観がなされてい
る。そして、みづさんは彼らの伝
承のほろびを憂いてやったりし
て、いまだにこの地にとまると
おられる。われわれの方丈さん
も、昭和十八、九年に旧
制静岡高校に在籍した
仲間で、ほかです
て卒業して、佐藤君
も、あはれはともま
で二階科の二三人も
来ていた。戦中のおわ
り、たし、戦年の心を、方丈さんの
いふ銀の光がつかない。た
めて、私にとりては、「おい、お
い、方丈さんは、三十一歳、
時に、下宿しないか」と誘って、
た、茶室の隅に、(現住の茶室)は
は、あつた。い、

心のふるさと

上 月 日

「われわれの方丈さん」

は、このよち、は、あつた。い、

静かに逝(な)ぎました。亡くなる数週間前には
ふるさとを語り、友人に洗(せん)なせしめし、
奥さんのみこせは、泣々と語られる。昭和四十六年
十一月、六十八才というまが、若くて、方丈さんは
サンフランシスコ科センターの一室で目を閉じし
たのである。今では市内と山中

鈴木俊隆師の長男岡一さんが今では
林使院の方丈さんが昨夏はうちの息子二人が
私にふるさとを参拝に行ってきた。
(文蔵者印刷局長)